

絲衣司  
いとごるものつかさ

# 卯月の会 於 金毘羅

4月12日(金)～14日(日)

18日(木)～21日(日)

入場無料

琴平グランドホテル 桜の抄 特設会場

時間 10:00～19:00

爪搔本綴

京絞り

服部 秀司

寺田 豊

京都のつづれ織と絞り染の作家の作品展です。

絲衣司(いとごるものつかさ)とは

この集まりは、2004年12月に始まりました。小学館から発行された「サライ」増刊「プラチナサライ」という雑誌の中で生まれたのです。著名なきものライターの高橋とさんに頂いた名前が「いとごるものつかさ」だったのでした。その時の見出しです。「特注ブランド 京都の職人集団が始めた世界に一枚しかない自分好みの着物や帯」「「談える」愉快。和服には自分ひとりのために、色や柄、染めや織りなど素材から特注する楽しみがある。ただ、一般の呉服店ではそんな特注に応じきれないこともある。そこで、着物数寄の要望に答えたいと、「和」の職人集団『絲衣司』が立ち上がった。(プラチナサライ2004年12月18日抜粋)まさしく、特注を受けられるつくり手の集団なのです。

つづれ織とは

実は、綴織り(つづれ織)は、とても原始的で一般的な織物です。世界の古代文明の遺跡から、つづれ織は発見されています。エジプト、中国、南米。それぞれ遠く離れた地でつづれ織が生まれ育ったのは、それが美しさを表現するのにふさわしい織り技だったからなのでしょう。その織物が我が国に伝わり、高度な美術織物として発展しました。爪織つづれ織の文様は、のこぎりの歯のようにギザギザにした爪で丹念に緯糸(よこいと)を掻き寄せ、織り込んでゆきます。織匠さんが、その一本一本を織り上げてゆきます。つづれ織は、「緯糸が往復して一越」という特殊な織技法により、裏表がありません。表側が汚れても裏返すことが出来ます。世界的に見ると、つづれ織りは装飾品や鑑賞のみの織物が主流です。装飾美術織物の代名詞「ゴブラン織り」もつづれ織りです。大きな劇場の舞台を飾る緞帳(どんちょう)もつづれ織りなのです。そして和服を着る時に締める帯も、つづれ織りで作られることがあります。まさしく手作り。つづれ織の帯は、柄や色合いから寸法まですべての点で一転ずつ織り上げます。また、緯糸がゆとりを持って織り込まれているので、柔らかくしかも締めていて弛みません。爪織つづれを織るにはたいへんな根気と労力を要し、文様によっては、一日にわずか1センチしか織り進めないこともあります。現在ではより希少価値の高い織物となっています。(服部)

絞り染とは。

絞り染とは糸で布を絞り防染を施し模様を染め出す。一見、単純と思える手技が古来より現代にいたるまでわたしたちの美意識の水脈をひらいてきました。しかもそれはどの民族の染織史をひもといても形をかえてあらわれています。

日本では、正倉院におさめられている奈良時代の紋裂にはじまって室町から江戸期の辻が花染め総鹿の子絞りをへて現代まで系譜がつづいています。古代、絞り染めもまた中国唐代の影響を受けておりその源流をたどれば古代インドへむかうと言われていました。今日の絞り染めは江戸時代の初期寛文の頃に確立しました。慶長小袖にみられる絞りから布の凸型を故意に残しあえて「しぼ」をみせるいわゆる半製品をよしとする近世の美意識が熟した時期です。室町から江戸初期にかけては日本のルネッサンス期と呼ぶに値するあたらしい日本の価値観が生まれました。茶道や数寄屋に象徴されるものにとらわれない見立ての手法。外来から移入したものをトレースする手法に甘んじることなく生活や風俗の中に美を読み取ってゆく力と自信。絞り染めに込められた美の精神もまた時空間をこえてわたしたちが常にたかちかえっていく永遠の原点でもあるのです。(寺田)

琴平グランドホテル「桜の抄」

〒766-0001

香川県仲多度郡琴平町977-1

TEL:0877(75)3218(代)

このたび琴平グランドホテル桜の抄様のご厚意により  
作品展を開催させていただくこととなりました。  
なにとぞご高覧賜りますことお願い申し上げます。

至 琴平駅

服部綴工房主宰 服部 秀司

1958年京都生まれ。  
同志社大学卒業。  
河合玲デザイン研究所にてテキスタイルを学ぶ。  
日本国内での爪搔綴織を製作。  
近年は、独自の創意考案や糸染めを自ら手がけ、  
各地で個展を展開。

絲衣司(いとごるものつかさ)

<http://www.itogoromonotsukasa.com>

お問い合わせ

[info@itogoromonotsukasa.com](mailto:info@itogoromonotsukasa.com)

京絞り 寺田主宰 寺田 豊

1958年京都生まれ。  
94年パリ市主催・バカテル城での工房展を皮切りに  
個展活動を始める。96年パリギメ美術館  
「雲に萩」購入。その他、三木睦子主催「伝統の美、  
絞りの華」展、草月70周年勅使河原宏創作「草に月」制作  
中村芝雀氏主演「人魚の恋椿」羽衣衣裳制作  
2006年より京鹿の子絞り工芸展に於いて  
知事賞市長賞など毎年受賞。

<http://www.kyoshibori.com>

